

【小浜市指定文化財】

福井県立若狭高等学校 正門・順造門

福井県小浜市

好学のシンボル・順造門

若州小浜藩の藩校・順造館の正門順造門は、明治維新後100年の歴史を経て移転・改修され、昭和五五（1980）年に、福井県立若狭高等学校の正門となった。本校は順造館↓小浜（師範）伝習所↓旧制小浜中学校の伝統を嗣ぐ。人材育成を目的とする藩校順造館は、福井県では最も早く、安永三（1774）年に山崎闇齋の京都での拠点望楠軒より講主西依墨山を教授（校長）に招き開校された。全国的には松平定信による寛政の改革以降の藩校開校が多いなか、それに先立つこと20年前であった。



順造門

小浜藩・5つの藩校

初代小浜藩主で幕府大老でもあった酒井忠勝以降、歴代藩主が「好学の大名」とされた小浜藩は、この順造館をはじめ、江戸の上屋敷に信尚館、中屋敷に必観楼、下屋敷に講正館をもつことで注目されてきた。

さらに、忠勝が將軍家光から二条城下の神泉苑の近くに拝領した広大な京都藩邸地にも「学問所」があったことが近年判明した。歴代藩主



が京都所司代になることが多く、都でも藩主以下が講書を受けていたのである。大藩でも国元と江戸に2つの藩校を持つのがほとんどのなか、僅か11万石の小浜藩は5つの藩校を持ち、好学の精神が充溢していたといえよう。そこから、蘭学者杉田玄白・中川淳庵、言語学者東条義門、国学者伴信友、幕末志士梅田雲浜など多彩な人材が輩出されることになる。

順造門の特色と風格

5つの藩校のなかでも最も重視された順造館は、享和二（1802）年に建坪200坪に増改築され、さらに天保五（1834）年に（藩校関係の唯一の遺構）正門順造門が新築された。

順造門は切妻造・本瓦葺の薬医門で、主要部分を樺材とする素朴な造りであるが、今もなお西翼には袖塀に遺る華やかな海鼠塀や大棟両端の鬼瓦に輝く剣片喰の酒井家紋が往時の学問所の風格を偲ばせている。

順造門をくぐるよ

この本校正門をくぐると、新制若狭高等学校

初代校長でプリニウス『博物誌』（岩波文庫）の翻訳者でもあった中野定雄先生揮毫の「無間断」の時計碑が、その足元には順造門移転に尽力された田中秋男第12代校長撰になる移転の経緯を語る石碑がある。

そこから南へ100mほど歩むと、当時の商業科生が自らの汗で造庭した「学園広場」に出る。その一画に、国学者・本居宣長の四大弟子の1人で歴史（考証）学の大家伴信友の生誕地を示す顕彰碑が、また南館2階の図書室書庫には順造館で教授された儒学関係の漢籍・和書（教科指導書）や、杉田玄白関係の医学書が収められている。歴史遺構の多い学園である。

（文責 中島 嘉文）



「無間断」の時計碑



伴信友生誕の地



伴信友生誕の地石碑

福井県立若狭高等学校正門・順造門見学情報

所在地：〒917-8507 福井県小浜市千種1丁目6-13
TEL：0770-52-0007（学校代表）
問い合わせ：教育旅行関係における見学をご希望の場合は、事前に学校代表電話にお問い合わせください。

注1 江戸幕府が朝廷・公家・京都市中・西国支配のためにいた職。
注2 親柱の後ろに二本の控柱を立て、切妻の屋根をかけた門。（山川出版社発行「日本史広辞典」）